

RKK 3ch

カエルカム

WELCOME!

月～金曜 ごご3時5分



MEG

青谷
倫太郎



熊本の生活情報 & ニュースは

RKKにおまかせ下さい!



栗原めぐみ
(気象予報士)

佐々木慎介

柿木綾乃

江上浩子

RKK NEWS
JUST

月～金曜 ごご
6時15分



倉田もえ

木村和也

週刊山崎屋
WEEKLY YAMASAKI-KUN

水曜
よる7時

RKK
BOYS & GIRLS
キャンペーン

RKKは熊本のがんばる
少年少女たちを応援しています!

キャンペーンソング「あしたへ」

吹奏楽スコア&パート譜
配信中♪

特設サイト <http://rkk.jp/bg/>

RKK 熊本放送
<http://rkk.jp>

Illustrated by Eguchi Hisashi © 2013

熊本地震復興祈念「ガンバロー クマモト」

熊本県民第九の会 第33回
第58回 熊本県芸術文化祭参加

ベートーヴェン

第九

第33回

平成28年12月25日(日)午後2時30分
熊本県立劇場コンサートホール

主催/熊本県民第九の会・熊本県文化協会
共催/(公財)熊本県立劇場

後援/NHK熊本放送局・熊本日日新聞社・RKK・エフエム熊本・FM791



熊本県知事

蒲島郁夫

第33回ベートーヴェン「第九」演奏会の開催を、心からお慶び申し上げます。

熊本の年末の風物詩であるこの演奏会は、県民参加の演奏会として、多くの方々に親しまれています。これも熊本県民第九の会の皆様の御努力の賜物であり、深く敬意を表します。

さて、本年4月に発生した熊本地震から早くも8カ月余りが経ちました。改めまして、被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。県では、「平成28年熊本地震からの復旧・復興プラン」を策定し、被災者の生活再建への支援と一日も早い熊本地震からの創造的復興に向けて、県民の皆様と共にふるさと熊本の更なる発展に全力で取り組んで参ります。

熊本県民第九の会では、毎年県内全域から集われた250人により、ベートーヴェンの「第九交響曲」を演奏しておられます。今年は、指揮者の金洪才さんのもと、第一線で活躍されている4人のソリストの方々、そして熊本交響楽団を交えて、一年の締めくくりにふさわしい演奏となっています。御来場の皆様には、感動的なステージを、たっぷり御堪能いただけるものと思います。

芸術文化は、人々の心を癒し、将来への夢や希望を与える力があります。ご出席の皆様には、音楽を通じて震災に負けず復興に向けて歩む熊本県民に、大きな力を与えて欲しいと願っております。

最後に、本日の演奏会の御盛會と、御参集の皆様のお活躍を祈念して、お祝いの言葉といたします。



熊本県立劇場理事長

姜尚中

年末恒例のベートーヴェン「第九」が今年も開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。

今回指揮をなさる金洪才さんは、平成6年から12年にかけて4度も熊本県民第九の会を指揮し、常に好評を博して来られた方です。そして、ソリストには熊本県出身のソプラノ歌手西森由美さん、メゾソプラノの鳥木弥生さん、テノールの馬場崇さん、そしてバリトンの牧野正人さんという、国内外で活躍する4人の方々を迎えられました。

この度の熊本地震では、多くの県民の皆様が被災され、県内各所において甚大な被害がもたらされました。開催に向けての準備も、並々ならぬご苦労があったことと思います。

熊本地震復興祈念「ガンバロー クマモト」を掲げ、地震後間もないころから練習を重ねてこられた合唱団や熊本交響楽団の方々。そして裏で運営を支えてこられた実行委員会のみなさまの熱意と努力により、素晴らしい歓喜のハーモニーに乗せて県民のみなさまに感動と喜びを届けてくださることに、深く敬意を表します。

この至福の時間を皆様と一緒に過ごせることに感謝申し上げますとともに、熊本県民第九の会のますますのご発展を祈念いたします。



熊本県文化協会会長

吉丸良治

第33回ベートーヴェン「第九」演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。

熊本県立劇場の柿落として始まったこの演奏会は、33回目を迎えています。クリスマスシーズンを飾る県民参加の音楽祭として多くの皆さんに親しまれてきました。

今回の指揮者には、国内外で御活躍の金洪才先生をお迎えしています。ソリストには、ソプラノに西森由美さん、アルトは鳥木弥生さん、テノールは馬場崇さん、そしてバリトンに牧野正人さんの4人をお迎えできたのです。

熊本交響楽団の調べに乗せて、4人のソリストと熊本県民第九の会の合唱団250名が「歓喜の歌」を歌われます。客席の皆様も御一緒いただきながら、高らかに響く歌声は、会場全体が感動の渦に包まれるでしょう。

御来場の皆様は、夢のようなひと時をたっぷりとお楽しみ下さい。

本演奏会を主催いただく「熊本県民第九の会」は、昭和57年熊本県立劇場と時を同じくして誕生されましたが、色々な困難を克服し、今日まで継続してこられたのです。これは、実行委員会と合唱団、そして熊本交響楽団との強い連携と使命感によるものでありましょう。

今年も、演奏者と観客が一体となった、歓びに満ち溢れる演奏会を期待するとともに、熊本県民第九の会の益々の御発展を祈念いたします。



熊本県民第九の会実行委員長

神田一伸

本日は年末のお忙しい中、「熊本県民第九の会」第33回演奏会へ足をお運びいただき心より感謝申し上げます。4月15日と17日の熊本地震では県内各地に甚大な被害が出ました。熊本県民第九の会演奏会も開催が危ぶまれましたが、本日こうして演奏会を開催する運びとなりました。震災の被害にあったこんな時こそ、ベートーヴェンの第九に寄せたメッセージを共有して誰もが手を取り合えればと思います。今年の指揮者は久しぶりの金洪才先生です。前回は平成12年の第18回だったので14年ぶりとなります。ソリストにはソプラノに熊本出身の西森由美先生、アルトは初登場となりますが熊本にご縁のあるという鳥木弥生先生、テノールも初めての馬場崇先生。バリトンは熊本でもたびたび演奏会をされている円熟の牧野正人先生です。ソプラノ以外は県民第九の会初登場の先生方です。

今回は第九の会としては初めての取り組みで、演奏会の開始時刻を14:30と致しました。また、第30回演奏会から取り組んでおります他団体との交流や第九（歓喜のうた）の部分のアンコールなど、今後も継続して取り組んでゆこうと思っております。このたびの震災では埼玉第九合唱団の皆様からお見舞いも戴きました。幸いにも多くの方々に助けていただき、毎回立派な第九演奏会を持つという夢を叶えることができます。これもひとえに第九を愛してやまない熊本県民の温かいご支援があったことと感謝しています。最後になりましたが熊本県文化協会、熊本県立劇場を始め関係各位のご協力に心より感謝申し上げます。今後とも「熊本県民第九の会」末永くご支援のほどどうか宜しくお願い申し上げます。

指揮 金 洪 才

独 唱 ソプラノ 西 森 由 美

アルト 鳥 木 弥 生

テノール 馬 場 崇

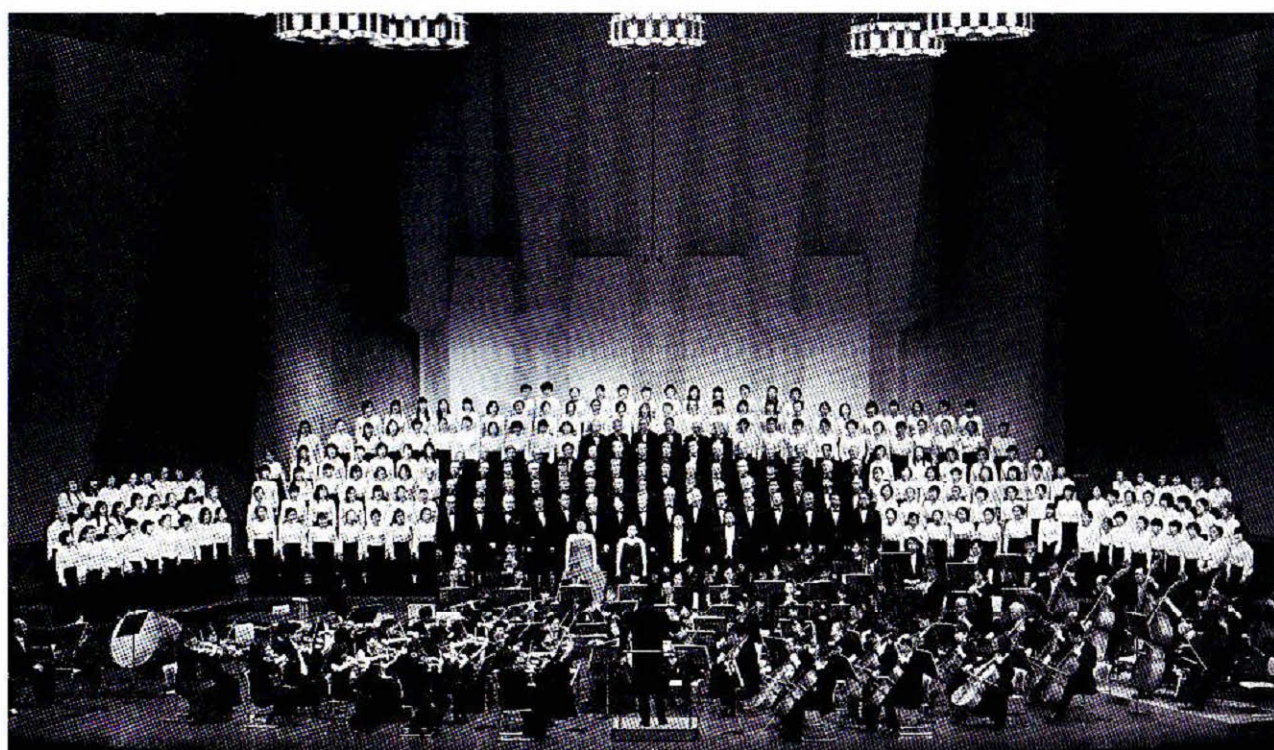
バリトン 牧 野 正 人

合 唱 熊本県民第九の会合唱団

音楽指導顧問 岩 津 整 明

合唱指揮	岩 代 和 武	ピ ア ノ	川 辺 里 美
	河 添 富 士 子		隈 部 恵 文
	中 島 章 利		古 閑 恵 美
	平 和 孝 嗣		砂 泊 宇 希
	南 迪 子		林 原 子 眞 澄
			星 子

管 弦 楽 熊 本 交 響 楽 団



平成27年12月6日(日)《第32回熊本県民第九の会演奏会(指揮=小森康弘)》

指揮 金 洪 才

キム・ホンジェ・Kim Hong Je



1954年生まれ。桐朋学園大学音楽学部卒業。指揮を堤俊作、秋山和慶、小澤征爾の各氏に師事。1978年、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団特別演奏会でデビュー。1979年、東京国際指揮コンクールで第2位と、初めての特別賞(齋藤秀雄賞)を受賞。テレビ番組「オーケストラがやってきた」、「私の音楽会」の専属指揮者に選ばれる。東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、広島交響楽団の指揮者を歴任の傍ら、読売日本交響楽団、東京都交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団をはじめ全国の主要オーケストラに客演。内外の著名ソリストとも数多く共演し、優れたバトンテクニックで常に好評を博してきた。1989年よりベルリンにおいて作曲家、尹伊桑(ユン・イサン)氏の下で研鑽を積む。1992年9月には、ニューヨーク・コリアン交響楽団を指揮し、カーネギーホールでアメリカデビューを果たし大成功を収めた。また、1998年、長野で開催されたパラリンピック開幕祝典演奏の指揮をつとめた。

2000年10月、ソウルで開かれたアジア欧州会議(ASEM)の祝賀公演に招かれて韓国KBS交響楽団を指揮。以後、同オーケストラに度々招かれるほか、韓国交響楽団定期演奏会にも出演。2004年10月、文化庁舞台芸術国際フェスティバル公演として、ソウル・フィルハーモニック管弦楽団来日公演を指揮、続くソウル公演にも客演する。オペラでは2001年10月に韓国《芸術の殿堂・オペラハウス》でヴェルディ「仮面舞踏会」を5夜連続公演し大成功を収めた。2003年9月にはひろしまオペラ推進委員会主催による日韓提携公演ブッチーニ「蝶々夫人」を指揮、この分野でも着実にキャリアを重ねている。2007年より韓国・蔚山(ウルサン)市立交響楽団の芸術監督に就任。以後数多くの演奏会を指揮し、オーケストラの音楽的レベルを飛躍的に高める。2012年6月に行われたアメリカ、カナダにおける公演で高い評価を得、更に2015年6月に行われたアメリカ公演ではカーネギーホール、国連本部会議場ホールに満員の聴衆を集めスタンディングオベーションの大喝采を受けた。2016年7月には、韓国・光州市立交響楽団創立40周年を記念した来日公演を指揮し大成功を収めた。

平成10年度渡邊暁雄音楽賞受賞

西森 由美 (にしもり ゆみ)

ソプラノ



熊本県水俣市出身。東京藝術大学卒業。二期会オペラスタジオ第28期修了、最優秀賞受賞。文化庁オペラ研修所第5期修了。

これまでに フィガロの結婚《伯爵夫人》、魔笛《パミーナ》、コシ・ファン・トゥッテ《フィオルディリージ》、ドン・ジョヴァンニ《ドンナ・アンナ》、ヘンゼルとグレーテル《グレーテル》、オテロ《デズデモ》、サロメ《サロメ》、カルメン《ミカエラ》、ペレアスとメリザンド《メリザンド》等、ドイツ、イタリア、フランスの多くのオペラに出演。それらを透明感のある美声で表現し、多彩な役柄を演じ分け絶賛を博した。

オペレッタの分野では、はるのパレード《マリカ》、ルクセンブルク伯爵《アンジェール・ディディエ》役で出演。瑞々しい感受性と美しい日本語で観客を魅了した。また、児童合唱及び合唱曲の作曲や指導者として世界的に活躍しているヴィトータス・ミシュキニス氏の率いる合唱団『アジュアリユカス』（リトアニア共和国）と各地で共演。新境地を開いた。

その他のコンサートでは、ベートーヴェン《第九交響曲》、ヘンデル《メサイア》、ハイドン《天地創造》、モーツァルト《レクイエム》《大ミサ八短調》《ミサ・プレヴィス》、フォーレ《レクイエム》、マーラー《交響曲第四番》（熊本交響楽団と共演）他数多くのミサ曲、オラトリオのソリストとしても活躍している。また、ドイツに於ける『山本純ノ介展演奏会』に同行。各地でベルリンフィルのメンバーと共演し好評を博した。二期会会員。

鳥木 弥生 (とりき やよい)

メソソプラノ



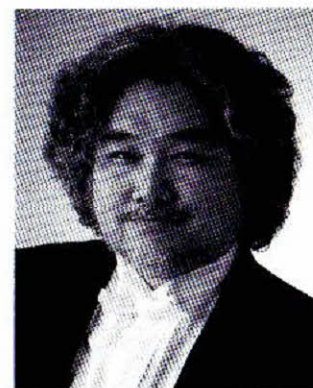
フィレンツェ市立歌劇場オペラ研修所にて研鑽を積む。東欧各地におけるリサイタルで演奏活動を開始。日本では岩城宏之、アンサンブル金沢との共演でデビュー。02年フィレンツェ歌劇場公演ブッチーニ《ジャンニ・スキッキ》でオペラデビューの後、ピストイアでのブッチーニ《外套》フルーゴラ、クレルモンフェランでのビゼー《ジャミレ》タイトルロールなど、ヨーロッパ各地でのオペラ公演やコンサートに多数出演し、好評を博す。07年文化庁海外派遣制度で渡仏。パリ、エコールノルマル音楽院オペラ芸術科のディプロマを最高位で取得。

近年、ロッシーニ《セビリアの理髪師》ロジーナ、ビゼー《カルメン》題名役、ヴェルディ《イル・トロヴァトーレ》アズチーナ、ベッリーニ《カプレーテイ家とモンテッキ家》ロメオなど、メソソプラノの重要なレパートリーで成功を取め、2016年4～5月には、サバデル（スペイン、バルセロナ）のファランドウラ歌劇場を始め、カタルーニャ各地でブッチーニ《蝶々夫人》スズキを全十公演つとめ、現地メディアで歌唱、演技ともに絶賛を得た。

16年冬から17年にかけての出演は《蝶々夫人》スズキ（東京劇術劇場、他）、《カルメン》題名役（立川市民オペラ）など。ベートーベン《第九》《莊嚴ミサ》、ヴェルディ《レクイエム》などのソリストとしても数々の著名オーケストラ、指揮者との共演で活躍。藤原歌劇団団員。武蔵野音楽大学講師。

馬場 崇 (ばば たかし)

テノール



東京藝術大学音楽科卒業、同大学院修士課程オペラ科修了。第39回日伊声楽コンクール第2位。第36回イタリア声楽コンクールにてシエナ大賞受賞。平成19年度文化庁新進芸術家海外留学研修生として渡伊。ヴェネツィア、トレヴィーゾに留学。横浜オペラ未来プロジェクトにてM.ハンベ演出「コシ・ファン・トゥッテ」フェランド、「セヴィリアの理髪師」アルマヴィーヴァ伯爵、「フィガロの結婚」バジリオで出演。オペラでは他に「イドメネオ」タイトルロール、「愛の妙薬」ネモリーノ、「ラ・ボエーム」ロドルフォ、「蝶々夫人」ピンカートン、「マノン・レスコー」デ・グリユー、「トスカ」カヴァラドッシ、「アドリアーナ・ルクヴルール」マウリツィオ、「仮面舞踏会」リッカルド、「ドン・カルロ」「オテロ」タイトルロールとして出演。

またヘンデル「メサイア」、ベートーヴェン「第九」「合唱幻想曲」ストラヴィンスキー「プルチネッタ」グノー「聖チェチーリア荘嚴ミサ曲」ロッシーニ「荘嚴ミサ曲」等にソリストとして出演。

2015年、熊本シティ・オペラ協会公演にて「ドン・カルロ」にタイトルロールとして出演。

翁長剛、高橋啓三、川上洋司、(故) A.サルヴァドーリ、L.マツァリアーア、A.ピエルフェデリーチ、R.フェラーリ、C.モルガンティの各氏に師事。日本声楽アカデミー会員。

牧野 正人 (まきの まさと)

バリトン



オペラでは「ドン・ジョヴァンニ」「蝶々夫人」「チェネレントラ」「セビリアの理髪師」「アイダ」「ボエーム」「ルチア」「カルメン」「シモン・ボッカネグラ」「愛の妙薬」「アンドレア・シェニエ」「ファウスト」「マクベス」「アルジェのイタリア女」「アドリアーナ・ルクヴルール」「トスカ」「道化師」「ファルスタッフ」「ドン・バスカール」などに出演。藤原歌劇団を代表するバリトン歌手として活躍。新国立劇場にも開場以来、オープニング公演（ゼッフィレリ演出）「アイダ」にアモナスロ役で出演後、「セビリアの理髪師」「蝶々夫人」「ボエーム」「リゴレット」「ナブッコ」「椿姫」「夕鶴」など出演を重ねている。

また、モンテヴェルディの「オルフェオ」、ペーリ「エウリディーチェ」、カリッシミ「イエフテ」、チェステイ「オロンテア」などの公演に参加。「イタリア初期バロック時代の歌唱法について」「イタリア声楽曲におけるメリスマ音型の歌唱」などの研究論文を発表し、バロック時代の演奏と研究は高い評価を受けている。「歌と詩の解釈、通奏低音のセミナー」など、多くの音楽セミナーや講習会に講師として参加し、バロック時代の歌唱法を基にした発声法や演奏表現を後進に伝えている。

国立音楽大学音楽科卒業、大学院修了。パヴィーア国際声楽コンクール第2位、エンナ市主催F・P・ネリア国際声楽コンクール第1位入賞。第2・3回ジローオペラ賞受賞。

洗足学園音楽大学教授。藤原歌劇団正団員。(公財)日本オペラ振興会評議員。



音楽指導顧問
岩津 整明

熊本大学教育学部音楽科卒業後、阿蘇農業高校、水俣高校、第一高校、甲佐高校を歴任、現在必由館高校非常勤講師。
熊本県合唱連盟顧問。熊本混声合唱団・合唱団Le Grazie指揮者。



岩代 和武

武蔵野音楽大学声楽科卒業後、熊本県立高校に教諭として35年間勤務。その後、熊本国府高等学校に非常勤講師として4年間勤務。現在、合唱団アルビレオ、JBクリスタル合唱団、灯コーラスグループ「歌人の会」指揮者。熊日学生音楽コンクール合唱部門審査員。平成12年にくまもと県民テレビが企画・制作したDVD「火の国旅情」の混声合唱テノールパートを担当。声楽を新圭子、板橋勝、足田生次郎、藤沼昭彦、下野昇の各氏に師事。



河添 富士子

東京藝術大学を経て、同大学院オペラ科修士課程修了。台東区、取手市、杉並区、熊本のベートヴェン「第九」等のソリストを務める。2010年、熊本にてリサイタルを開催。2015年、オペラ「カルメン」でカルメン役を演じる。岩津整明、三浦久美子、曾我栄子、藤枝昭俊、木村宏子、ウバルト・ガルティエの各氏に師事。現在、熊本大学、熊本学園大学、大分県立芸術文化短期大学、熊本市立必由館高校芸術コース非常勤講師。東京二期会、大分二期会会員。



川辺 里美

熊本大学教育学部音楽科卒業後、福島大学大学院教育学研究科音楽教育専修修了。Van Vertコンサート、NHK美術館コンサート等に出演。アンサンブルピアノのタベ、フランス音楽のタベなどを開催。大阪音楽国際音楽コンクール連弾部門入選。現在、福岡で音楽活動を行っている。



隈部 文

国立音楽大学教育音楽学科リトミック専攻卒業。熊本県同調会新人演奏会、熊本県新人演奏会などに出演。リトミック国際免許保持者。現在、平成音楽大学勤務、熊本YMCA学院講師、リトミック研究センター熊本支局顧問。また、幼稚園、保育園、高齢者施設でもリトミックを行っている。



古閑 恵美

熊本音楽連盟定期演奏会において、モーツァルトのピアノコンチェルトを演奏。「みやまコンセル記念演奏会・九州の演奏家」「熊本労音記念演奏会」など数多くの演奏会に出演。また、NHK交響楽団コンサートマスター篠崎史紀氏、第5回ジャンピエール・ランバル国際フルートコンクールグランプリ受賞者の瀬尾和紀との共演など、器楽・声楽等多くのリサイタル等においてピアニストとして演奏活動を行う。高野雅子氏と5回のピアノ・デュオリサイタルを主催。中九州短期大学、尚綱短期大学、熊本学園大学講師を歴任。



中島 章利

北海道大学卒業。中学校、高校時代はサッカー部に所属。大学入学時に女子学生の甘い勧誘で合唱にはまり込む。合唱指揮を木内宏治氏、管弦楽指揮を栗田哲海氏に師事。声楽を中尾富子、石田久人、三浦國彦の各氏に師事。昭和61年札幌市新人音楽会（声楽）に出演。札幌で多数の合唱団を指導。帰郷し、現在はロシア作品を中心に歌う女声合唱団チャイカを主宰。男声合唱団KGC（熊本）指揮、コールかもめ（熊本）指揮。福岡合唱指揮者協会会員。



平和 孝嗣

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程修了。文化庁オペラ研修所入所（第一期生）。ウィーン国立音楽大学卒業（オーストリア政府給費留学）。これまで熊本や東京、ドイツ、ウィーン等々で22回のリサイタルを開催。また、多くのオペラやコンサートにも出演。他、熊本をはじめ、九州でのいろいろな音楽コンクールの審査員も務めている。熊本日独協会、熊本県文化協会、日本演奏連盟会員。熊本大学名誉教授。



南 迪子

国立音楽大学声楽科卒業。オペラやリサイタルを始めコンサートの出演多数。レパートリーは、クラシックのみならず、唱歌・童謡・抒情歌・ミュージカルなど多岐にわたる。声楽教師として後進の指導にあたり、優秀な生徒を排出している。他、合唱指導者としても実績を残している。現在、熊本市立必由館高等学校・芸術コース声楽講師。合唱団サソククロス「輝」「悠」指揮者。



砂泊 宇希

九州女学院高等学校（現九州ルーテル学院）、京都市立芸術大学音楽学部音楽学科ピアノ専攻卒業。伊藤幸絵、吉川由三子、神西敦子、岡田敦子の各氏に師事。熊本市民合唱団ユージェント・コール、熊本シティオペラ協会、コール湖東、コールはなぞの各ピアニストを務める。熊本県文化懇話会会員。



林原 ゆり

国立音楽大学ピアノ専攻卒業。2001年ソロリサイタル開催。熊本県新人演奏会、NHK美術館コンサート、RKKアトリウムコンサート出演。その他、ピアノデュオコンサート、ジョイントコンサート等に多数出演。近年はアンサンブルピアニストとして精力的に活動している。現在（有）古城楽器音楽教室ピアノ講師。「コーロフィオーレ」「合唱団Le Grazie」「合唱団ひびき」伴奏ピアニスト。



星子 眞澄

国立音楽大学ピアノ専攻卒業。オーストリア・ウィーン私立ブライナーコンセルヴァトリウム2期修了。国立音楽大学卒業演奏会、熊本県新人演奏会、西日本新人演奏会に出演の他、3回のソロリサイタルを行う。現在、ルーテル学院大学兼任講師、熊本文化懇話会会員。

1. 「ロザムンデ」序曲 八長調 作品26

シューベルト

2. 交響曲第9番 二短調 作品125 「合唱付き」

ベートーヴェン

第1楽章 Allegro ma non troppo e un poco maestoso

第2楽章 Molto vivace

第3楽章 Adagio molto e cantabile

第4楽章 FINALE

皆さん一緒に第九を歌いましょう

熊本県民第九の会は、県立劇場の柿落としの事業として「ベートーヴェンの第九」が企画され、オーケストラは熊響、合唱団は広く県民に呼びかけ結成され、熊本県民手作りの演奏会として開催されました。

この演奏会が大変好評で、関係者の皆様から熊本県民の第九として継続してほしいとのご要望から、実行委員会が組織され、プログラム末尾に記載のとおり、毎年国内外の著名な指揮者・ソリストを招いて開催しています。

一流の指揮者、ソリスト、約100名からなるオーケストラ、そして約300名の合唱団。この大編成のステージに立って同好の仲間と歌う感動・感激は体験した人しかわかりません。

聴くだけでも感動する「ベートーヴェンの第九」です。皆様方も、この第九の合唱に参加し、体験することで、感動を一層大きく深いものにしてみませんか。

県民第九の会の合唱団員募集期間は毎年6月上旬からはじまり、7月末日が締め切りとなっています。「合唱団員募集要項(申込書)」は6月上旬から県立劇場・崇城大学市民ホール・西野楽器店その他県内の主要文化施設に置きますのでご利用下さい。

練習期間は8月中旬に結団式を行い、9月から12月まで月3回程度のペースで、主として日曜・祭日の午後に合計13~14回程度の練習です。

来年は是非お申し込み頂きたく、ご案内申し上げます。

皆様方のご参加を心からお待ちしています。

熊本県民第九の会実行委員会

お問合せ 事務局 090-2851-1007

■ シラー《歡喜に寄す》

対訳=大宮 真琴

O Freunde, nicht diese Töne ! sondern
lasst uns angenehmere anstimmen, und
freudenvollere.

バリトン独唱

おお、友よ、この調ではなく、
さらに快い、さらに喜びに満ちた調べを
ともに歌おう!

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum !
Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng geteilt ;
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt,

バリトン独唱・合唱

歡びよ、神々のうるわしい輝きよ!
楽園の娘らよ!
われらみな、感動に酔い、
天の高みの神殿に踏み入ろう!
この世に厳しく引き離された者らを、
神秘なる御身の力は、再び結び合わせる。
御身の優しい翼の憩うところ、
すべての者らは、同朋(はらから)となる。

Wem der grosse Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein !
Ja, wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund !
Und wer's nie gekonnt, der stehle
Weinend sich aus diesem Bund !

四重唱・合唱

大いなる天の賜物をうけた者らよ、
真空の友情を勝ち得た者らよ、
女の優しい愛を得た者らよ、
歡びの歌を、ともに歌え!
しかり、たとえ、ただ一人の魂でさえも
地上の友と呼べる者を持つことができるならば!
だが、それさえ持つことのできなかつた者は、
涙しつつ、足音をしのぼせ、立ち去るがよい!

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur ;
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund, geprüft im Tod ;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
Und der Cherub steht vor Gott.

四重唱・合唱

すべてこの世に在るものら、
自然の胸から歡びを飲み、
すべての善人も、すべての悪人も、
喜びの薔薇の小径を行く。
歡びは、われらに、口づけと葡萄酒と、
そして、死さえも奪い去ることのできぬ友とをあたえ、
虫けらにさえも楽しみがあたえられ、
天使ケルビムは、神の御前立つ。

Froh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

テノール独唱・男声合唱

歡びよ、歡びよ、神の太陽たちが、
壮大な天の軌道をたのしく飛びかうように、
同朋(はらから)よ、おのれの道をすすめ、
歡びに満ちて、英雄が勝利の道をすすむがごとくに。

Seid umschlungen, Millionen !
Diesen Kuss der ganzen Welt !
Brüder ! über'm Sternenzelt
Muss ein lieber Vater wohnen.
Ihr stürzt nieder, Millionen ?
Ahnest du den Schöpfer, Welt ?
Such' ihn überm Sternenzelt !
Über Sternen muss er wohnen.

合唱

たがいに手を取り合おう、億万の人々よ!
この口づけを、全世界にあたえよう!
同朋(はらから)よ、星のかなたには、
愛する一人の御父が住み給うのだ。
ひれ伏して祈るか?億万の人々よ。
創り主を心に感ずるか?世界の民よ。
星空のかなたに、王をさがし求めよう!
星たちのうえに、主は住み給うのだ!

1. 「ロザムンデ」序曲 八長調 作品26

シューベルト

1823年12月20日アン・デア・ウィーン劇場で戯曲「ロザムンデ」は、その初日を迎えた。これは「キュープロスの女王ロザムンデ」という4幕からなるロマンの戯曲で、ヘルミーナ・フォン・ヒェツイという女流作家によるものである。

シューベルト (Franz Peter Schubert 1797-1828) は、この劇の上演のために、依頼されて間奏曲やバレエ音楽、合唱曲など10曲の劇音楽を作曲した。しかし、作曲の依頼が切迫していたこともあって、序曲を作曲する時間がなく、初演に当たっては前年に作曲して、まだ上演されていない「アルフォンソとエストレラ」のための序曲を用いた。

この戯曲は、「ロザムンデ」と呼ばれるようになったが、今日ではまったく忘れ去られたにもかかわらず、音楽だけは非常に美しいもので、当時から評判となり、初演終了の時、作曲者がわざわざステージに呼び出されるほどであった。後にシューベルト自身の弦楽四重奏曲第13番の第2楽章にこの「ロザムンデ」の間奏曲のテーマを用いたこともよく知られている。

その後、シューベルトは「ロザムンデ」を楽譜出版するに際し、1819年に作曲した戯曲「魔法の竖琴」のための序曲を、「ロザムンデ」序曲作品26として出版した。

「ロザムンデ」序曲は、旋律の美しさが強い魅力となっているもので、先ずアンダンテ、八長調、四分の三拍子の導入部で始まる。弦を主体としたユニゾンと、不安定な和音につづいてオーボエとクラリネットによって導入部の主題旋律が呈示されると、これがシューベルト特有の対位法的な取り扱いによって他の楽器に受け継がれ、余韻を残しながら導入部を閉じる。つづく主部は二分の二拍子、八長調、アレグロ・ヴィヴァーチェで、軽快な第1主題によって開始される。つづいて経過部に新しい動機が現われ聴く人の心を浮き立たせる。やがて優しい第2主題が現われ、短い展開部を経て再現部では第1、第2主題が再現し、曲は八分の六拍子のコーダとなり、ティンパニの連打のうちに盛大に終結する。

2. 交響曲第9番二短調作品125「合唱付き」

ベートーヴェン

ベートーヴェンは、一つ一つが内容と性格を異にする八つの交響曲を書き終えたのち、生涯の最後に九番目の交響曲に書手した。

1793年、ポンのフィツェニヒは、シラー夫人の手紙で「彼は歓喜をも、しかも各節残らず作曲するでしょう…」と告げていることにより、ベートーヴェンは生地ボンにいたときから、すでにシラーの詩「歓喜に寄す」に作曲したいと思っていたことがわかる。

1822年に、ロンドンのフィルハーモニー協会は、ベートーヴェンに新しい交響曲の作曲を依頼してきた。このことで、今までベートーヴェンの頭の中に、うかんだり、消えたりしていた合唱付きの交響曲の構想が、いっきよに実現することになった。そして1823年から24年にかけて、この巨大な交響曲が完成した。シラーの「歓喜に寄す」に作曲する意図をいだいて、完成するまでに、じつに30数年にわたっていることになる。

この曲は、ベートーヴェンの音楽における技法と精神の最も円熟した時代の作品であって、その内容が雄大な精神と、大胆にして洗練され、全く独創に富んだもので、いく多の目新しい技法がそこに示され、その楽想は当時の常識を全く超えたものであった。四人の独唱者や大規模な合唱団を用いたり、終曲の初めにおいて、前の三つの楽章を回想したりなどはその一例である。

初演は1824年5月7日夜、ウィーンのケルトナートア劇場で行われた。

ベートーヴェンの聴力がかなり衰えていたことは、この曲の初演の際に、指揮者を二人おいたことでもわかる。ベートーヴェンは正指揮者のウムラウフの隣りにあって、実際の演奏とは、くい違ったテンポや表情で空しく空間に弧を描くのみであったという。

「第九」の演奏は練習不足ではあったが、聴衆には偉大な感銘を与え、各楽章の終わりには万雷の如き拍手が起った。特に終曲が終ったとき、成功は決定的となった。満堂の聴衆は感激して総立ちとなり喝采を浴びせた。しかし、耳の聞こえないベートーヴェンは聴衆を背にしてボンヤリしていた。見かねたアルトの独唱者ウンガーがかれの袖をひいて聴衆の方を向けたので、かれは初めてこの曲が非常な感銘を与えたことを知り、礼をしたという。聴衆はこの劇的な悲愴な光景に感激し、さらに拍手を続けて、作曲者を五度も答礼のためにステージに出させた。答礼は三回というのが皇帝に対する礼儀なので、警官があわてて聴衆を制したという。

(第一楽章) Allegro ma non troppo e un poco maestoso

「第九」の規模の雄大さと、劇的な性格は、はやくもこの楽章でも示されている。導入は、天地の混沌を想わせる茫漠とした空5度(第三音がない)の響きで始まる。やがてこの響きのなかから鋭いリズム・モチーフが生起する。このモチーフが圧縮され、第1主題が澎湃(ほうはい)として沸き起こる巨大な魂のごとく蕭然(しょうぜん)たる姿をあらわす。ソナタ形式は、いまだかつて、このような主題を経験したことがなかったのである。

第2主題は第1主題と異なって、楽しい性格のものである。これにつづく部分も、大体においてこの気持もち、ときどき第1主題の部分をまじえながら展開部へとつづく。そしてその劇的壮大さは再現部における第1主題へ壮烈な導入において、クライマックスに達する。

ワーグナーによると「我々と地上の幸福との間をさえざる敵意ある暴力の圧迫に対して、喜びをかち得ようと努める魂の戦い、極めて壮大な意識で把握された戦いが、この第一楽章の基礎をなしているように思える」である。

(第二楽章) Molto vivace

およそベートーヴェンの書いたスケルツォのなかで、最も大規模なものである。鋭い付点リズムを含む、むしろ単純なスケルツォ楽想が、およそ考えうる限りのすべての展開を行う。トリオの主題はあきらかに第一楽章のエピソードから受けつがれたものであり、終楽章の「歓びの調べ」への橋わたしの役を果たすことにもなるのである。

ワーグナーは「激しい喜びが、この第二楽章をはじめのリズムで直ちに我々をとらえる。新しい世界の中に我々は入り、そこで陶酔や麻酔へと駆りたてられるからである…」と語っている。

(第三楽章) Adagio molto e cantabile

賛歌ふうの主題旋律と希望と浄化を象徴するような

明るく美しい第2主題は、この両主題にもとづく自由な変奏形式をとっており、叙情的な旋律、色彩的な和声は、宗教的な敬虔さをもって瞑想的に展開され、情熱も闘争もない平和な幸福感が描き出される。

この交響曲の中で一つの頂点であり、ワーグナーは「なんと清らかに天国のようななだめ方でそれ等の音は反抗と絶望におののいた魂のはげしい促しを、やわらかい憂鬱(ゆううつ)な感覚へと溶けさせていくことが、思い出がごとくに享受したきわめて純粋な幸福への思い出が目ざめるかのように思われる…」と語っている。

(第四楽章) FINALE

第1呈示部=まず管打楽器によるあわただしい楽想が奏される。これに対し低弦がレシタティブでこたえる。それから、前の三つの楽章がそれぞれ回想され、低弦のレシタティブによって否定されていく。そしてついに、一つの歓ばしい旋律が現れる。この主題は初めに低弦によって歌われ、くり返しながら全合奏に至る。

第2呈示部=この楽章の初めの、あわただしい楽想がもどってくる。やがてバリトン独唱が、力強く歌いはじめ。ついで合唱がそれにつづく、やがて他の独唱も加わり、ひとつのクライマックスをつくる。曲想一転して行進曲となり、テノール独唱が歌いはじめ。そして男声合唱が、力強く歌い加わる。

再現部=やがて曲はふたたび「歓喜の調べ」がもどり、合唱が重々しく新しい主題をうたう。やがてこの新しい主題と「歓喜の調べ」とが組み合わせられて、壮麗な二重フーガがくりひろげられ、全曲中の一つのクライマックスを形づくる。

コーダ=曲想が一変する。主題旋律の新しい変奏に入り、四人の独唱者と合唱が変化のかぎりをつくして、交互に歌いすすめる。

圧倒的な合唱コーダとなり、合唱の最後は、マエストロとなるが、管弦楽だけが残り、圧倒的な終結を一気に終る。

「熊本県民第九の会」実行委員会

顧問	下田 幸城	委員	梅田 雄介	藤本 幸弘
	林原 隆治		川田 幸子	山崎 崇伸
	草刈 秀士		高倉 正純	
委員長	神田 一伸		田北 洋康	
事務局長	坂口 幸男		黒葛原 潔	

熊本交響楽団

インスペクター 田中 真由美 KUMAMOTO SYMPHONY ORCHESTRA

<コンサートマスター> 黒葛原 康子

<1st バイオリン>

内田 優 帆
鬼塚 雅 子
佐藤 ゆい子
高木 恭 子
高木 信 雄
高木 範 貢
高田 中 真由美
田上 真由美
黒葛原 契 子
黒葛原 康 子
西村 勇 也
原 津 真美子

<2nd バイオリン>

岩橋 和 江
岡 純 子
高妻 珠 希
坂本 雅 之
佐藤 弘 美
去川 聖 奈
新川 友 香
中尾 麻 美
東 眞 知
村 裕 子
山 田 恭 子

<ヴィオラ>

荒木 拓 実
荒木 智 子
尾谷 友 紀
桂 敦 子
釘宮 俊 輔
甲田 啓 子
水田 剛 伸
山崎 崇 伸

<チェロ>

内賀嶋 直 美
金子 岳 史
田畑 範 昭
槌田 博 文
長坂 輝 喜
佛淵 かつよ
信 夫

<コントラバス>

後藤 誠 司
白木 信一郎
出上 博 子
原田 直 美
姫路 夏 子

<フルート>

木村 多佳也
塚本 菜 月
日野 栄 理

<オーボエ>

片岡 久 哉
辰野 裕 昭
徳 永 奈 保

<クラリネット>

黒木 健 次
高原 野 栄 次
笠 敏 千 帆

<ファゴット>

小田 穂 積
黒田 孔 太郎
高島 奈 津美
田村 聡 司

<ホルン>

加久 美 雪
齊藤 恵 之
野村 梢 寛
平田 幸 賢
松元 俊 賢

<トランペット>

上村 佳 朗
永廣 正 治
姫路 恭 輔

<トロンボーン>

梅田 雄 介
濱崎 美 幸
原 翔 真
安 永 沙 織

<打楽器>

木下 知 里
塚本 美 雪
富永 忠 男
福 島 好 好



熊本県民第九の会のあゆみ

第1回 昭和57年12月28日(火) 越天楽(雅楽)(近衛秀磨編曲)



指揮/山田 一雄



独唱/新 圭子



木村 宏子



伊豆野 修



高橋 修一

第2回 昭和58年12月11日(日) 楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲(ワーグナー作曲)



指揮/人友 直人



独唱/高見久美子



岡 ますみ



入野 光彦



柴田 啓介

第3回 昭和59年12月27日(木) 弦楽のためのアダージョ 作品11(バーバー作曲)



指揮/山岡 重信



独唱/中沢 桂



木村 宏子



板橋 勝



池田 直樹

第4回 昭和60年12月25日(木) 「レオノーレ」序曲第3番 八長調 作品72a(ベートーヴェン作曲)



指揮/フジノタケヒト



独唱/三縄みどり



妻鳥 純子



伊達 英二



中村 邦男

第5回 昭和61年12月27日(火) トッカータとフーガ 二短調(J.S.バッハ作曲/ストコフスキー編曲)



指揮/荒谷 俊治



独唱/津下美奈子



木村 宏子



鈴木 寛一



芳野 康夫

第6回 昭和62年12月26日(土) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/中沢 桂



木村 宏子



近藤 伸政



栗林 義信

第7回 昭和63年12月25日(日) 序曲「コリオラン」ハ短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/三縄みどり



木村 宏子



鈴木 寛一



平野 忠彦

第8回 平成元年12月24日(日) 「プロメテウスの創造物」序曲 作品43(ベートーヴェン作曲)



指揮/小松 一彦



独唱/秋山恵美子



木村 宏子



成田 勝美



高橋 啓三

第9回 平成2年12月23日(日) 「ロザムンデ」序曲 作品26(シューベルト作曲)



指揮/小松 一彦



独唱/山田 綾子



木村 宏子



大野 徹也



福島 明也

第10回 平成3年12月23日(月) 「エグモント」序曲 ハ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/安永武一郎



独唱/西森 由美



木村 宏子



田中 誠



宮原 昭吾

第11回 平成5年12月23日(木) 楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲(ワーグナー作曲)



指揮/荒谷 俊治



独唱/河添富士子



春日 成子



小林 彰英



栗林 義信

第12回 平成6年12月25日(日) 「エグモント」序曲 ハ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/岩永 圭子



妻鳥 純子



齋場 知昭



勝部 太

第13回 平成7年12月24日(日) モテット「アヴェ・ヴェルム・コルプス」k.618(モーツァルト作曲)



指揮/金 洪才



独唱/西森 由美



妻鳥 純子



大島 博



大島 幾雄

第14回 平成8年12月23日(月) カンタータ第147番よりコラール「主よ、人の望みの喜びよ」BWV147(J.S.バッハ作曲)



指揮/本名 徹二



独唱/河添富士子



妻鳥 純子



大間知 寛



瀬戸口 浩

第15回 平成9年12月21日(日) 序曲「コリオラン」ハ短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/志岐由理子



妻鳥 純子



牧川 修一



小川 裕二

第16回 平成10年12月20日(日) 「レオノーレ」序曲第3番 ハ長調 作品72a(ベートーヴェン作曲)



指揮/井崎 正浩



独唱/佐々木典子



岩森 美里



井ノ上 了史



瀬戸口 浩

第17回 平成11年12月19日(日) 「エグモント」序曲 ハ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/レオ・クレマー



独唱/水野 貴子



青山智英子



持木 弘



松本 進

第18回 平成12年12月23日(土) 歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b(ベートーヴェン作曲)



指揮/金 洪才



独唱/河添富士子



妻鳥 純子



大間知 寛



大島 幾雄

第19回 平成13年12月23日(日) 歌劇「魔弾の射手」序曲(ウェーバー作曲)



指揮/田代 詞生



独唱/佐々木典子



青山智英子



井ノ上 了史



松本 進

第20回 平成14年12月22日(日)



指揮/松尾 葉子



独唱/三縄みどり



杉野 麻美



米澤 傑



瀬戸口 浩

第21回 平成15年12月21日(日) 喜歌劇「こもり」序曲(J.シュトラウス作曲)



指揮/井崎 正浩



独唱/佐々木典子



大林 智子



米澤 傑



松本 進

第22回 平成16年12月26日(日) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/大山平一郎



独唱/安藤赴美子



一色 礼子



五十嵐 修



木村 俊光

第23回 平成17年12月25日(日) 序曲「コリオラン」 八短調 作品62(ベートーヴェン作曲)



指揮/田代 詞生



独唱/三縄みどり



妻鳥 純子



大間知 覚



佐久間 伸一

第24回 平成18年12月24日(日) 歌劇「フィデリオ」序曲 作品72b(ベートーヴェン作曲)



指揮/山田 和樹



独唱/西森 由美



岩森 美里



井ノ上 了史



小川 裕二

第25回 平成19年12月23日(日) 混声合唱のための「うた」から(武満徹作曲)



指揮/山田 和樹



独唱/佐々木典子



加納 里美



井ノ上 了史



佐野 正一

第26回 平成20年12月21日(日) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/澤 和樹



独唱/松本美和子



山下 牧子



米澤 傑



松岡 聡

第27回 平成21年12月20日(日) 序曲「献堂式」 八長調 作品124(ベートーヴェン作曲)



指揮/現田 茂夫



独唱/三縄みどり



加納 里美



樋口 達哉



堀内 康雄

第28回 平成22年12月26日(日) 「エグモント」序曲 へ短調 作品84(ベートーヴェン作曲)



指揮/角田 鋼亮



独唱/藤本いくよ



山下 牧子



大澤 一彰



小川 裕二

第29回 平成23年12月25日(日) 交響詩「フィンランディア」作品26(シベリウス作曲)



指揮/新田 ユリ



独唱/本松 三和



山下 牧子



米澤 傑



松岡 聡

第30回 平成25年12月22日(日) 楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第1幕への前奏曲(ワーグナー作曲)



指揮/井崎 正浩



独唱/佐々木典子



大林 智子



大澤 一彰



佐久間伸一

熊本県民第九の会のあゆみ

第31回 平成26年12月7日(日) 序曲「コリオラン」ハ短調 作品62 (ベートーヴェン作曲)



指揮/新田 ユリ



独唱/河添富士子



愛甲 久美



樋口 達哉



平和 孝嗣

第32回 平成27年12月6日(日) 「エグモント」序曲ハ短調 作品84 (ベートーヴェン作曲)



指揮/小森 康弘



独唱/福嶋 由記



兼武 尚美



土崎 譲



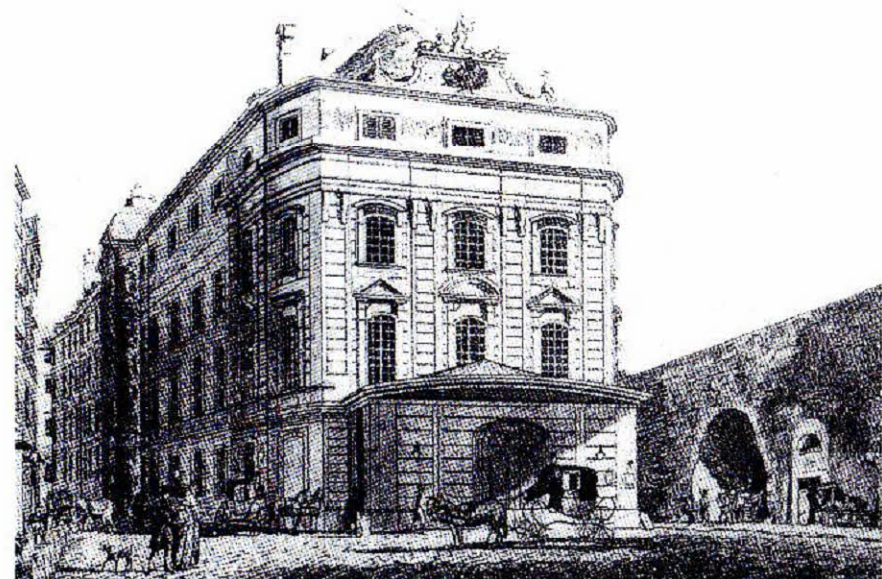
水野 洋助

本山洋氏を悼む

去る12月9日、熊本県民第九の会顧問の本山洋氏が逝去されました。氏は熊本交響楽団のメンバーでもあり、第九の会の創立当時から今日までの長きにわたり、第九の会実行委員会委員として、あるいは同顧問として会の運営と発展に多大な功績を残されました。

ここにありし日の氏を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

合 掌
熊本県民第九の会実行委員一同



ベートーヴェンの第九交響曲の初演が行われたウィーンのケルントナーア劇場

歓喜の歌

f
 Freu - de, schö ner Göt - ter fun - ken, Toch - ter aus E
 フロイ デ シューアーネル ゲッ テル フン ケン トッホ テル アウス I
sf
 ly si um, Wir be - tre - ten feu - cr - trun - ken,
 リュー ズウイ ウム ヴィル ベェ トリエーテン フォイ エル トウルンケン
 13 *sf*
 Himm - li sche, dein Hei lig - tum! Dei - ne Zau ber
 ヒインムリイ シェダイン ハア イリイヒトウム ダアイ ネ ツウアウベル
 19 *ff*
 bin den wie - der, was die Mo - de streng ge - teilt; al -
 ビンデェン ヴィーデル ヴァスディ *sf* モオー デ シュツレンクゲ タイルトアツ
 25
 le Men schen wer den Brü - der, wo dein sanf - ter
 レエ メンシェン ヴェルデン ブリウ デル ヴォーダイン ザンフテル
 31
 Flü - gel weit; Dei - ne Zau - ber bin - den wie der,
 フクリウー ゲルヴァイルト ダアイ ネ ツウアウベル ビンデェン ヴィイデル
 37 *ff*
 was die Mo - de streng ge teilt; al le Men - schen
 ヴァス ディ *sf* モオウ デ シュツレンクゲ タイルトアツ レエ メンシェン
 43
 wer - den Brü - der, wo dein sanf - ter Flü - gel weit.
 ヴェルデン ブリウー デル ヴォーダイン ザンフテル フクリウー ゲルヴァイルト

約340人が出演した「第九」演奏会=25日、熊本市中央区の県立劇場



響き渡る 歓喜の歌 県立劇場で「第九」演奏会

年末の風物詩・ベートーベン「第九」演奏会が25日、熊本市中央区の県立劇場で開かれた。約340人の出演者による「歓喜の歌」が会場いっぱいに響き渡った。県民第九の会、県文化協会主催。演奏会は1982年の同館落成を記念して毎年開いてお

り、33回目。国内外で活躍する金洪才さん(東京都)が指揮し、水俣市出身のソプラノ歌手西森由美さんら4人のソリストも出演。熊本交響楽団や、公募で集まった高校生から92歳までの合唱団と共演した。

「交響曲第9番」(第九)の

第4楽章では、ドイツの詩人シラーの「歓喜に寄す」の一節を力強くドイツ語で熱唱。希望に満ちた歌声を聴かせた。シューベルトの「ロザムンデ」序曲、クリスマスにちなんだ「きよしこの夜」も披露。観客と一緒の合唱もあった。(國崎千晶)

下通アーケード
で突然始まった
「第9」の演奏
=18日、熊本市

被災者支援へ
「フラッシュモブ」

突然「第9」♪ 下通に響く



街頭などで突然、不特定多数の人が演奏などのパフォーマンスを繰り広げる「フラッシュモブ」が18日、熊本市中央区の下通アーケードであり、ベートーベンの「交響曲第9番」が響き渡った。

熊本地震の被災者支援につなげようと、ボランティア団体「くまもと音楽復興支援100人委員会」（253人）などが企画した。

この日、熊本交響楽団の団員ら60人と合唱担当

の110人が下通アーケード付近に待機。午後5時ごろ、日本航空の客室乗務員らがハンドベルを奏で始めると、チェロやバイオリン、トランペット、フルートの演奏者らが徐々に現れ、約15分間にわたって迫力ある旋律や歌声を響かせた。

演奏会の様子は動画サイト「ユーチューブ」にアップする予定で、被災者支援の募金を募るとい

（猿渡将樹）

県立劇場で「第九」演奏会



年末の風物詩・ベートーベン「第九」演奏会が熊本市中央区の県立劇場で開かれ、約340人の出演者による「歓喜の歌」が会場いっぱいに響き渡った。